

研究テーマ「道徳科における問題解決的学習」

対話を機能させ、考えが深まる授業づくり

～「道徳学習プログラム」と問題解決的な学習を取り入れた授業づくりを通して～

安芸高田市立可愛小学校

はじめに

本校は一昨年度より文部科学省委託「道徳教育改善・充実」総合対策事業の指定を受け、2年間道徳教育の研究に取り組んできた。昨年度からは、道徳の時間と他教科、学校行事、常時活動などを関連させた「道徳学習プログラム」に取り組んでいる。道徳学習プログラムを進める中で、道徳の時間で学習したことを実践に移したり、他教科や体験活動で体験したことをもとに、道徳の時間においてさらに補充・深化・統合させたりできたことは、児童の考えも深まりやすく、児童の道徳的実践力を育成するには効果的であった。

本年度は、昨年度の取組をもとにして、総合的な学習の時間や各教科、学校行事等と関連をもたせた教科横断的な「道徳学習プログラム」の実践を、2年後に統合が決定している町内の小学校と合同で研究しながら、さらに充実させ取り組んでいく。また、児童に課題意識をもって臨ませ、課題追究の流れとなるように発問を組み合わせ、多様な考え方や感じ方を学びとらせる「問題解決的な学習」を取り入れることを通して、児童に自分の思いや考えをもたせ、友だちと対話し、新たな学びや深い学びを創造させていくこととする。

1 研究内容

(1) 主体的に対話し、考えを深めていくための問題解決的な学習を取り入れた授業づくり

- ①課題意識をもたせる導入の工夫
- ②児童が主体的に学習を進めていくための課題設定や発問の組み合わせ
- ③自己を見つめ直す展開後段
- ④これからの生き方につなげる終末

(2) 他教科や体験活動と関連させた「道徳学習プログラム」の研究

- ①別葉の作成
- ②プログラム構想図の作成

(3) 児童の学習意欲につながる評価の工夫

- ①道徳の時間の評価（道徳ノート）
- ②自己評価
- ③エピソード評価

2 実践

(1) 主体的に対話し、考えを深めていくための問題解決的な学習を取り入れた授業づくり

- ① 本校では、児童に「問い」をもたせるため、各教科、領域等の授業において、導入の工夫を意識して行っている。道徳の授業においては、事前にアンケートをとり、学級の実態を示したり、ねらいとする価値項目を意識させたりすることで、課題意識をもたせ、課題追究ができるような授業づくりをしている。
- ② **共感的な発問**、**分析的な発問**、**投影的な発問**、**批判的な発問**の4種類の組み合わせを工夫し、課題追究の流れとなるようにする。
- ③ 「自分たちもこんなことを考えたことはなかっただろうか。」「自分にとってどういうことなのだろう。」日常生活はもちろん、体験活動、他教科等で学習したことを通して感じたこととつなげて考えさせ、道徳的価値の一般化を図りやすくしている。
- ④ 導入時にもった課題意識について、学習展開の中で考えたことをもとに、自分なりに学んだことや気づいたことなどを書く場を設ける。その際、「こんな気持ちを大切にしたい。」「こんな風に生きていくってかっこいいな。」という思いを心の中に膨らませ

ることができるようにしていきつつも、人間としての弱さがあり、実現することが難しい場合もしっかりと認めていくようにする。

(2) 他教科や体験活動と関連させた「道徳学習プログラム」の研究

① 本校では、道徳教育にかかわる各教科等や体験活動、実践活動の指導の内容及び時期を別葉として整理し一覧にまとめている。別葉は、道徳学習プログラムを組む際にも活用している。また、年度末には見直しをかけ、修正を図り、より活用しやすいものとしている。

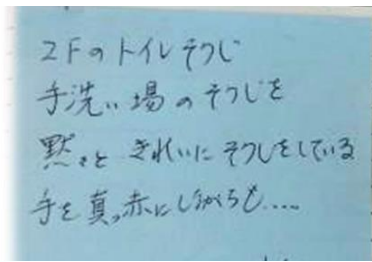
道徳教育目標	自己肯定感を高め、よりよい生き方を考える児童の育成 ～つながり合いを通して、自他の上に気づかせる～		
高学年の重点目標	○より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。1ー(2) ○誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。2ー(2) ○互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女律よく協力し助け合う。2ー(3) ○身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。4ー(4)		
	主な体験活動や実践活動 (道徳の内容との関連)	道徳の時間	その他
四月	●挨拶運動「あけい」 誰にでも気持ちのよい挨拶を心を込めてできるようにする。 ●1年生歓迎遠足 2ー(2) 6年生としての自覚をもち、新しく入ってきた1年生を温かい気持ちで迎えようとする。	1ー(6) 個性の伸長 『短所を改め、長所をのびて』 4ー(1) 公徳心・道徳 『きまりは何のために』 3ー(1) 生命尊重 『ボトマツ川英雄』	学校活動 『生活の決まり』

別葉【6年生】

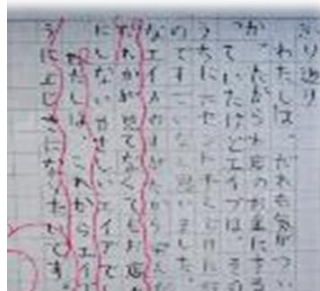
② 本校では、総合的な学習の時間や各教科、学校行事等と関連をもたせた教科横断的な「道徳学習プログラム」を学期に1本、全学級担任が計画し、取組を進めている。

(3) 児童の学習意欲につながる評価の工夫

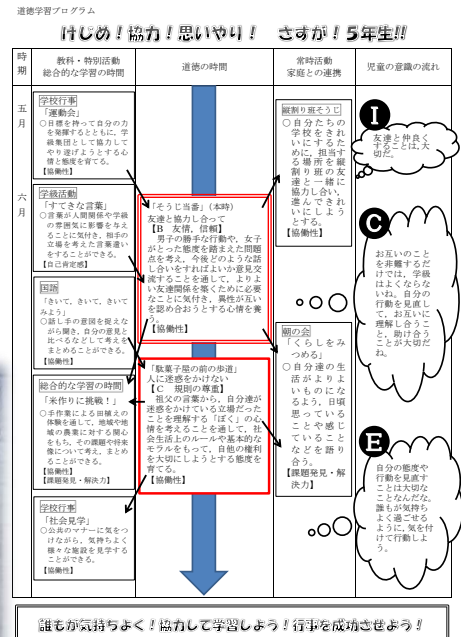
① 道徳の授業で何が分かったのか、新たに何に気づいたのかについて、一人一人の児童がふりかえり、自身の変容を実感できることをねらって、導入でもたせた課題意識について道徳ノートに綴っている。



エピソード評価のための付箋



道徳ノート



誰の心も大切にしよう! 協力して学習しよう! 行事を成功させよう!

「道徳学習プログラム」【5年生】

- ② 道徳ノートを学びの足跡とし、自己評価に生かす。また、道徳アンケートも児童の自己評価とする。
- ③ エピソード評価として、全職員が付箋を携帯し、子供達の日々の道徳的な行いをメモして、担任に渡し、交流している。担任は、本人に伝えて肯定的評価をすることはもちろんのこと、学期ごとの「あゆみ」の行動の記録の評価に反映させたり、年度末の指導要録の行動の記録に生かしたりする。

3 成果と課題

(1) 成果

- 導入で課題意識をもたせることで、思考に深まりが見られた。
- 終末において、導入で課題意識をもたせたことについて振り返ることで、迫りたい道徳的価値の自覚を深めることができた。

(2) 課題

- 問題解決的な学習が効果的な資料や価値項目について検討するとよい。

おわりに

成果と課題をもとに、これからもさらに研修を充実させ、「道徳学習プログラム」と問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業づくりに取り組んでいきたい。